

# E-9 ヤマギシズム社会の家族と住居について ——生活構成単位に関する研究——

高知大教育 浜 芳子

1. ヤマギシズム社会は1958年に農民を基盤としてつくられた私有の無い共同社会である。一般的な家庭の枠を超えたこの社会における家族と住居のあり方を明らかにし、全体の生活構成単位の機能と構成を明らかにしようとした。

2. 1966年からの実地調査において聴取り、見聞の他、アンケート生活時間調査を行なった。今回、生活時間調査の結果を報告する。これは「いつ」、「どこで」、「だれと」、「どうした」かを3日間記入してもらったものである。

3. 生活空間は、夜、寝るのは「宿舎」と呼ばれる住居であるが、他はほとんど男女とも、各年令層とも住居以外の空間で過ごしている。「誰とすごすか」を「家族」と「メンバー」に分けてみると、「仕事」はもちろんの事「だんらん」もメンバーどおしのものが多い。従来の家族で楽しむだんらんとは異っている。住居の機能は夫婦の就寝、休息であり、一種の「\*ねどこ型」住居である。しかしそれは、だんらんが疎外された「ねどこ型」ではなく、機能分担の形であられたそれである。すなわち従来の家庭の機能である育児、教育、食事、炊事、洗濯入浴、だんらんなどは、メンバー200人余からなる生活調整機関という生活共同体の機能である。生活構成の最小の単位は夫婦であり、子供、青年、老人が混然一体となった生活共同体を形成している。

\*「ねどこ型」西山卯三氏の住空間の型分類による。